

# 外部評価書

平成 20 年 12 月

全学入試センター



静岡大学

# 目 次

静岡大学全学入試センター外部評価について	1
外部評価委員	4
外部評価実施の経緯	4
外部評価委員の調査票	5
外部評価委員会日程・会議次第	17
外部評価委員会議事録	22

# 静岡大学全学入試センター外部評価委員会 平成20年10月16日(木)実施



## 静岡大学全学入試センター外部評価について

全学入試センター長

寺下 榮

### 1. はじめに

静岡大学全学入試センターは、平成 15 年 10 月 1 日に開設され、5 年が経過した。この間、平成 16 年 4 月 1 日には国立大学法人として新たなスタートを切り、第 1 期中期計画では「I-1 教育に関する目標を達成するための措置」の中で「入学者受け入れに関する目標を達成するための措置」として、以下の 4 点が掲げられた。

- ① 各学部、研究科等の求める学生像について広く情報を公開し、それにふさわしい入試を実施する。
- ② 全学入試センターを中心に、受験生の量・質両面における確保のための多様な対策を実施する。
- ③ 入試制度の多様化、入学機会の拡充及び長期在学制度の導入等により、留学生、社会人等を含む多様な学生を受け入れる。
- ④ 選抜制度別の入学生の学習状況、進路等について追跡調査を行い、選抜方法の改良と適正化を図る。

上記の中期計画に基づき、平成 16 年度以降立案した年度計画は、業務の推進とともに姿を変え、平成 20 年度における年度計画は以下のようになっている。

- ① 入試・就職戦略WGでの問題提起を踏まえ、各学部、研究科等のアドミッション・ポリシーの見直しを行い、これにふさわしい入試の改善方法を検討する。
- ② 全学入試センターを中心に、高校長協会及び県内外の教員等を対象とした説明会や進学相談会を充実させる等、優れた受験生を多数確保するための対策を講ずる。
- ③ 入試制度の多様化、入学機会の拡充及び長期在学制度の活用等により、社会人等を含む多様な学生を受け入れる。また、アジアの留学生を対象に渡日前選抜試験を実施する。
- ④ 入学者選抜方法研究会で行った追跡調査の結果を基に、各学部等において選抜方法の部分的改善を図り、さらに平成 23 年度以降の方向付けを行う。

こうして 16 年度と 20 年度の年度計画を比較してみると、中期計画で掲げた「入学者受け入れに関する目標」と「目標達成のためのミッション」が年度を経るに従って、より具体化していることが分かる。今回、外部評価委員会で得られた貴重な提言・助言を今後の業務遂行に十分に活かすとともに、全学入試センターを存在感のある学内共同教育研究施設にするために積極的な活動を展開していきたい。

## 2. 外部評価会議について

全学入試センター外部評価会議は平成20年10月16日に実施した。3名の外部評価委員には、8月上旬に「自己評価書」をお送りし、事前に目を通しておいていただいた。

評価会議当日は、まず「自己評価書」に沿って、7つの基準ごとに「優れた点」及び「改善を要する点」について、その根拠を明らかにするとともに、質疑応答の時間を設けた。その後、3人の外部評価委員による評価会議を開催していただき、各委員から「自己評価書」ならびに当日の聴き取り調査に基づく講評をいただいた。

評価会議終了後は、10月末を期限として、7つの基準について「評価」と「コメント（意見・提言）」及び「総合評価」を記載した「外部評価調査票」を提出していただき、これら資料に基づく「外部評価書」を作成した。

## 3. 外部評価委員からの「総合評価」について

3人の外部評価委員からは、多くの基準・項目について「優れている」あるいは「良好である」との高い評価をいただいた。具体的なコメントとして、総合評価の中で「従来、学部教員の負担となっていた入試の諸業務の一部を肩代わりすることによって、存在意義を学内的に認知させる役割を果たせた」、「設立当初の設置目的は充分役割を果たしてきている。学内に対しても機能的な組織として位置づけることが出来ている」、「広報活動や分析に関しては全国の大学の中でも非常に高い水準にある。設立から5年たち、その役割は十分に果たしてきた」との感想をそれぞれいただくことができた。

また、今後への期待をこめて、「入学者選抜に関する全学のシンクタンク・司令塔としてビジョンを示すべき」、「センター主導での全学入試改革を実行すべき」、「大学の新しい方向を示す次のステップに進むべき」など、第二期中期計画におけるセンターのあり方についても重要な示唆をいただいた。

一方で、「改善すべき点」として以下の2点が挙げられた。入試情報処理部門における人員の絶対的な不足と情報発信基地としてのセンターの役割である。

前者については、自己評価書の「基準2 活動の実施体制」で、「将来的に安全な実施体制を保持する仕組みが必要」と自己分析したことについての指摘だが、これに関連して、任期付き教員の処遇に関して「年限と再任回数の制限を再考すべき」との意見があった。

後者に関しては、自己評価書の「基準5 施設・設備」で、改善を要する点として「ホームページを開設するなどセンター独自の視点による情報発信の必要性」を挙げたが、外部評価委員からは更に踏み込んで、「学外に対する情報は、センターが発信基地となるような仕組みを検討すべき」とのご意見をいただいた。

#### 4. 外部評価委員からの提言を受けて

静岡大学全学入試センターは、学内共同教育研究施設のひとつとして「入学者選抜に関する企画、広報及びデータ分析等を専門的に調査研究し、各部局で実施する入学試験を専門的立場から支援し、本学における円滑な入学者選抜の実施に寄与する」ことを目的に設立された。

今回、設立から5年が経過し、「自己評価書」の作成と外部評価委員による「外部評価」が終了し、「外部評価書」に取りまとめることができた。「自己評価書」では、「活動の目的」、「活動の実施体制」、「教員の採用・昇格等」、「活動の状況と成果」、「施設・設備」、「財務」、「管理運営」の7つの基準について厳しく自己点検を行い、優れた点及び改善を要する点を明らかにした。一方、「自己評価書」、及び事前調査・当日調査に基づく「外部評価委員会」では、3名の外部評価委員から貴重な提言をいただくことができた。

これまでの5年間の全学入試センターの活動に対しては、高い評価とともに、今後に向けて示唆に富む助言をいただいた。また、改善すべき点についても各委員からは的確な指摘とともに、具体的な改善策まで示していただいた。今後は「自己評価書」と「外部評価書」に基づき、これまで以上に存在感のあるセンターを目指していきたい。

そのために、まずはホームページの作成に取り組む。業務上、秘匿性が求められるデータ・情報を大量に扱うことから、これらの扱いには十分注意を払い、学内外に有益な情報を提供・公開する。その際、外部評価委員からの提言を受け、入試チームや各部局とも連携を取りながら、入試情報の発信基地としての役割を明確にしていきたい。

また、外部評価委員から提言のあった「人員配置」の課題に関しては、リスクマネジメントの観点を重視し、入試情報処理部門について、関係部局とも調整しながら早急に補充を含めた対応策の検討に入りたい。

#### 謝辞

今回、外部評価委員を3氏にお願いした。国立大学で入試関係の業務に精通されている高木繁教授（名古屋工業大学アドミッションオフィス長）と富永倫彦教授（山口大学アドミッションセンター長）の2氏と、多くの大学に対し入試企画の提案をしてこられた稲垣靖氏（ゴートゥースクール・ドット・コム(株)取締役）である。ご多用な中、外部評価委員として貴重な助言や提言はもとより、改善のための方途まで示唆していただいた。厚く御礼申し上げます。

平成20年12月

◆ 外部評価委員

高 木 繁 氏 名古屋工業大学アドミッション・オフィス長  
富 永 倫 彦 氏 山口大学アドミッションセンター長  
稲 垣 靖 氏 ゴートウースクール・ドット・コム株式会社取締役

◆ 外部評価実施の経緯

平成20年

5月	全学入試センター外部評価委員を学長に推薦
6月～7月	外部評価資料（自己評価書・参考資料）及び外部評価書の作成方針について検討
8月上旬	外部評価資料及び外部評価調査票の内容の最終確認及び作成
8月中旬	外部評価資料及び外部評価調査票並びに外部評価委員会開催通知を事前送付
10月上旬	全学入試センターと入試チームにて、外部評価に関わる事項の確認
10月16日	「外部評価委員会」の実施
10月下旬	外部評価委員から外部評価調査票の提出
11月	全学入試センターにて、「外部評価書」原稿のとりまとめ
12月中旬	「外部評価書」作成
12月下旬	「外部評価書」公表

## 静岡大学 全学入試センター 外部評価 調査票

- \* 外部評価委員会を平成 20 年 10 月 16 日（木）に開催します。
- \* お送りした「自己評価書」の基準 1 から基準 7 までの各項目について、評価とコメントをご記入いただきます。
- \* 評価につきましては、該当する項目に☑を入れてください。
- \* この調査票は、外部評価委員会後、10 月 31 日までに提出していただくことになります。

評価委員 高木 繁

### 基準 1 活動の目的 (pp. 3~5)

#### 【コメント】

位置づけ、学内への周知という点では充実しており、問題はない。しかし、組織的な部分で、全学入試センターの位置づけがはっきりしない部分がある。全学の入試を統括するという組織的な位置づけであっても良いと思われる。今後、組織図の中での位置づけについて、再検討されてはどうかと思われる。

#### 基準 1 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

### 基準 2 活動の実施体制 (pp. 6~7)

#### 【コメント】

情報処理部門の専任教員の補充がなされておらず、事実上 1 名ですべてを処理する体制となっている。この点は、リスクマネジメントの観点からいっても大きな問題点だと思われる。また、その 1 名が浜松地区に常駐している状況なので、負担という面でも好ましい状況とは考えられない。その他の点に関しては、特に広報活動の実施体制という面では、大変に充実していると思われる。今後、早急に情報処理部門の専任教員（静岡地区）の補充を検討する必要があると思われる。

#### 基準 2 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である



基準3 教員の採用・昇格等 (pp. 8~9)

【コメント】

採用・昇格の基準が明確であり、任期制がきちんと運営されている点は高く評価できる。ただし、任期と再任回数については検討が必要であると思われる。外部から新規に採用を行う場合、現在の条件では大きな障害となる可能性が高い。今後、任期と再任回数に関して現在のメンバーへの対応も含めて検討してはどうかと思われる。

基準3の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準4につきましては3つの項目別をお願いします。

基準4-1-1-1 活動の状況と成果

(入試企画広報部門-学外向け活動) (p. 10)

【コメント】

広報物、広報イベントのいずれにおいても、他大学を上回る活動を行っており、十分な効果を上げていると考えられる。

特に、不十分な点は見あたらないと思われる。ただ一点だけ、各学部で作成しているパンフレットに統一感が見られない点が気になる。広報においても、大学としての一貫性は重要であると思われるので、今後、スタイル(せめて表紙)の一貫性について、全学入試センター主導の元に検討してはどうかと思われる。

基準4-1-1-1の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準4-1-1-2 活動の状況と成果

(入試企画広報部門-学内向け活動) (pp. 10~11)

【コメント】

上述の、上の学外向け活動のところでも述べたように、入試改善、入試広報のいずれにおいても、統一していくことが必要であると思われる。入試制度の決定権が最終的には学部にあるとしても、改善策や基本方針を長期的に検討していき、実行する部署としては全学入試センター以外にはないと思われる。入試広報研究会、ZNCレポート、新入生アンケートの実施に関しては十分な活動をしており、効果も上げていると思われるが、その結果を入試の改善に確実に結びつけるための組織的な整備がまだ不十分であると思われる。今後、入試全体を統一していくために、全学入試センターが単なるアドバイスだけでなく、実質的な決定に関与できるようなシステムの構築を検討していくべきだと思われる。

基準4-1-1-2の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 4-1-1-3 活動の状況と成果

(入試情報処理部門) (p. 11)

【コメント】

実際の活動に関しては十分高いレベルで行われており、その点では充実しているといえる。しかし、先にも述べたとおり、人員の絶対的な不足、それに対しての仕事量の多さが、かなりのリスクを秘めていると感じられる。静岡地区での人員1名の補充だけではなく、今後は、仕事量自体を減らす方向の取り組みが必要である。そのために、データ処理を外注するという点について検討してはどうかと思われる。

基準 4-1-1-3 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 5 施設・設備 (pp. 14~15)

【コメント】

施設・設備の整備と運用に関しては充実しており、問題は無いと思われるが、学内に対する情報ネットワークの整備（特に全学入試センターのHP）が不十分である。必ずしも、学内向けと言うことではないのかもしれないが、今後は、全学入試センターのHPから様々な入試情報にアクセスするという方法が必要であると思われる。そのための、大学全体のHPの構成について検討してはどうかと思われる。

基準 5 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 6 財務 (pp. 16~17)

【コメント】

予算の状況及び、資源配分、その配分効果の評価、など大変に充実している。今後、入試データの処理を外注にした場合には、そのための予算の確保が必要になるので、定常的に確保できる仕組みを検討してはどうかと思われる。

基準 6 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

---

基準7 管理運営 (pp. 18~20)

【コメント】

各項目とも充実しており、問題はないと思われる。構成員の情報アクセスに関しても、秘匿性からいって制限がかかってしまう点は、やむを得ないと思われる。

基準7の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

---

総合評価 (「自己評価書」全体を通してのコメントをお願いします)

実際の広報活動や分析に関しては、全国の大学の中でも非常に高い水準にあると感じた。しかし、人員の絶対的な不足、年限の問題が、足かせになっている点は否めない。この点に関しての、早急な改善が必要だと思われる。また、分析結果を実際の入試に反映していくところで、学部が最終的にすべてを握っているというシステムでは、十分に機能しないことが危惧される。元々の設立の経緯から、各学部の負担を減らすためのセンターという位置づけを未だに護っているが、設立から5年たったので、その役割は十分に果たしてきたと思う。全学的な機構上の整備は非常に難しいことは理解しているが、他大学にはいない非常に高い能力をもつセンターの構成メンバーなので、過去のしがらみは捨てて、静岡大学の新しい方向を示すという次のステップに進むべきだと思われる。

静岡大学 全学入試センター 外部評価 調査票

- \* 外部評価委員会を平成 20 年 10 月 16 日（木）に開催します。
- \* お送りした「自己評価書」の基準 1 から基準 7 までの各項目について、評価とコメントをご記入いただきます。
- \* 評価につきましては、該当する項目にを入れてください。
- \* この調査票は、外部評価委員会後、10 月 31 日までに提出していただくことになります。

評価委員 富永 倫彦

基準 1 活動の目的 (pp. 3~5)

【コメント】

全学的な視点から入試政策を遂行し専門的立場から各部局への支援を行うことを明示した基本方針は、活動の目的が明確で学内外の理解も得られやすい。入試企画広報および入試情報処理の両部門の所掌業務および達成しようとする基本的な成果についても具体的に示されているので、センターの存在意義が明確である。

基準 1 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 2 活動の実施体制 (pp. 6~7)

【コメント】

入試企画広報部門、入試情報処理部門のいずれの活動においても各学部選出教員が加わっている点は、学内の意思疎通の面からも高く評価できる。ただし、入試情報処理部門のセンター専任教員が 1 名で欠員補充が行われていない点については、リスクマネジメントの観点からも手当てが必要である。

基準 2 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準3 教員の採用・昇格等 (pp. 8~9)

【コメント】

専任教員の人事選考の基本方針が明確であり、再任の是非を決定するガイドラインも設けられ適切に遂行されている点はきわめて良好である。ただし、任期3年で再任3回まで可とする規定は根拠に乏しい。今後、若手の有能な人材を求める場合など、この規定が障害になることも考えられる。したがって、再任の回数規定は除外するのが望ましい。

基準3の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準4につきましては3つの項目別をお願いします。

基準4-1-1-1 活動の状況と成果

(入試企画広報部門-学外向け活動) (p. 10)

【コメント】

きわめて適切な広報活動が行われており、とりわけ高校教員対象の入試説明会に主軸が置かれている点や受験生向けに行われている土曜進学相談会などのきめ細かいサービスは、専門的な組織ならではの視点であり高く評価されるべきものである。

基準4-1-1-1の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準4-1-1-2 活動の状況と成果

(入試企画広報部門-学内向け活動) (pp. 10~11)

【コメント】

学内においても活動が多彩できわめて充実している。とりわけ、入選研を下部組織に位置づけて、毎年行われている調査研究の報告会は学内の意思疎通を図る役割を担うばかりか学内の意識改革にも有効なプログラムである。

基準4-1-1-2の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 4-1-1-3 活動の状況と成果

(入試情報処理部門) (p. 11)

【コメント】

入試情報処理を教員が行い、しかもセンターと学部で異なったプログラムにより合否判定資料を作成してミス防止策を講じるなど、随所に優れた活動と成果が見られる。

これらの作業には、短期的とは言え、少なからず時間を要するものであるから、将来的には部分的なアウトソーシングを視野に入れてもよいかもしれない。

基準 4-1-1-3 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 5 施設・設備 (pp. 14~15)

【コメント】

学外に対する情報ネットワークの充実という観点から、センターを入口として設けたホームページの構築が必要と思われる。入試関連の情報については、各学部によるのではなく、全学一元化し、センターから一括して情報発信するネットワーク環境を整えることを検討されたい。このことは、顧客である受験生等へのサービスとしても有効であるのみならず、センターが前面に出ることによる広報効果も期待できる。

基準 5 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 6 財務 (pp. 16~17)

【コメント】

入試広報にプライオリティをもたせた大学の戦略が予算に反映されており、恒常的に安定した予算措置が講じられている点は好ましい。

基準 6 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 7 管理運営 (pp. 18~20)

【コメント】

教員と事務職員の連携による教職協働が実践され、煩雑な入試関連業務の管理運営が効率よくなされている点は、きわめて優れている。

基準 7 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

総合評価 (「自己評価書」全体を通してのコメントをお願いします)

静岡大学全学入試センターは、当初の設置目的を十分に果たすべく活動をされ、多大な成果を残されてきたと評価できる。中期計画の第Ⅰ期に当たる現状においては、従来、学部教員の負担となっていた入試の諸業務の一部を肩代わりすることによって、存在意義を学内的に認知させる役割を果たせたと受け止められる。全体を通して、よく工夫をされた理想的な企画や精力的な活動が目につき機能的な組織として印象づけられる。

入試領域の業務は学外へ向けての情報発信であり、学外から志願者を呼び込むための政策を策定・具現化する組織であるゆえに、現状の学部入試色を徐々に薄め、やがては全学入試センターによって一元化された入学者選抜へと移行することが望ましいと考える。したがって、中期計画の第Ⅱ期では、入学者選抜に関する全学のシンクタンクとして、また司令塔として位置づけることが必要で、入学者選抜のめざすべき方向は、より整理されたシンプルな入試ではないかと考える。その意味では、第Ⅰ期で十分な役割を果たし存在意義を示されたので、第Ⅱ期では、新しい全学入試センターとしてのビジョンを示すことが必要ではないだろうか。いわば、ウラ舞台で支える第Ⅰ期からオモテ舞台でリーダーシップを発揮する第Ⅱ期へと発展するセンターに期待したい。

## 静岡大学 全学入試センター 外部評価 調査票

- \* 外部評価委員会を平成 20 年 10 月 16 日（木）に開催します。
- \* お送りした「自己評価書」の基準 1 から基準 7 までの各項目について、評価とコメントをご記入いただきます。
- \* 評価につきましては、該当する項目にを入れてください。
- \* この調査票は、外部評価委員会後、10 月 31 日までに提出していただくことになります。

評価委員 稲垣 靖

### 基準 1 活動の目的 (pp. 3~5)

#### 【コメント】

全学入試センターの基本方針は、入試企画広報部門と入試情報処理部門を両輪とし、規則にある「入学者選抜に関する企画・広報及びデータ分析等を専門的に調査研究し、各部署で実施する入学試験を専門的立場から支援し、本学における円滑な入学選抜の実施に関与することを目的とする」ことから、学外に対して積極的な学生募集・広報活動を展開するとともに、学内に対しても、有効な入試情報やアラームを発信し続けることが当センターの大きな役割として充分満たしていると言える。

#### 基準 1 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

### 基準 2 活動の実施体制 (pp. 6~7)

#### 【コメント】

現状の体制では、問題ないようにも見えるが、入試情報処理部門のセンター専任教員が 1 名で欠員状態であるのは、機密保持の観点からも早急に対応すべき事項であるといえる。

#### 基準 2 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である



基準3 教員の採用・昇格等 (pp. 8~9)

【コメント】

専任教員の採用基準も5点明確にしてあり、また、再任の是非決定のガイドラインを設定されていて適切に運用されていて評価できる。ただ、任期が3年で再任3回までと規定されている点は、優秀な人材を確保する点や、若い優秀な人材を採用する場合に、障害となる基準になることにもなるので、再度検討の機会を設ける必要があるといえるものである。

基準3の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準4につきましては3つの項目別をお願いします。

基準4-1-1-1 活動の状況と成果

(入試企画広報部門-学外向け活動) (p. 10)

【コメント】

広報物の制作、広報イベントの企画実施など、広範囲での広報活動は高く評価できる。特に、高校教員説明会や年3回のオープンキャンパスや土曜進学相談会は、独自性もあり、集客などからも効果的であるといえるものである。

基準4-1-1-1の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準4-1-1-2 活動の状況と成果

(入試企画広報部門-学内向け活動) (pp. 10~11)

【コメント】

当センター発足に伴い、入試広報部門の下部組織に<入学者選抜方法研究部会>を設立し、調査研究テーマを設定し報告会を実施している点は、学内での情報共有や意識改革にも貢献しており、大いに評価できる点である。また、学内広報誌<ZNCreport>を配信し、入学前教育の実施などが入試改善提案につながり、入試改革に寄与している点も評価できる点である。

基準4-1-1-2の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 4-1-1-3 活動の状況と成果

(入試情報処理部門) (p. 11)

【コメント】

入試についての合否判定は各学部の責任で行われているが、当センターでは、入試課と協力して、志願者データ、大学入試センター試験データ、個別学力検査得点データのとりまとめを実施し、各学部へ適切に提供され、ミスなく実施されている点は評価できる点である。

基準 4-1-1-3 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 5 施設・設備 (pp. 14~15)

【コメント】

バリアフリーなどの施設や設備については、日常業務を遂行する上では、問題はないといえる。1点、早急に改善すべき点は、全学入試センターのHP構築であるといえる。学内外にある情報コンテンツを集約して、主に受験者や高校教員対象の情報発信をタイムリーに行うべきである。

基準 5 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 6 財務 (pp. 16~17)

【コメント】

広報の年間バランスなどの配分など、充分工夫されている点は評価できる。

基準 6 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準7 管理運営 (pp. 18~20)

【コメント】

全学入試センターと入試課との連携で、入学者選抜方法研究会部会を核にしながら、情報共有、学内改革がうまく運営できている点は評価できる。

基準7の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

-----  
 総合評価 (「自己評価書」全体を通してのコメントをお願いします)

静岡大学全学入学センターは、設立当初の設置目的は充分役割を果たしてきていると評価できる。規則にある「入学者選抜に関する企画・広報及びデータ分析等を専門的に調査研究し、各部局で実施する入学試験を専門的立場から支援し、本学における円滑な入学選抜の実施に関与することを目的とする」ことを十分に機能しているといえる。学外に対して積極的な学生募集・広報活動を展開するとともに、学内に対しても、有効な入試情報やアラームを発信し続けることが当センターの大きな役割として機能的な組織として位置づけることが出来ているといえる。

今後の課題としては、学内における本当の意味での全学入試センターとして、①入試制度の新ビジョンの策定をセンターが中心に行い、センター主導での全学入試改革を実行する。②今後、学内外の入試に関する情報発信は、全学入試センターHPを構築し、印刷物、企画イベント、HPの主要広報チャンネルを一括集中管理できるような体制を構築する。など今後の活躍・発展に大いに期待したい。

◆ 外部評価委員会 日程

日 時 平成 20 年 10 月 16 日 (木) 13 : 30 ~ 16 : 30

場 所 静岡大学共通教育 A 棟 303 教室

◆ 会議次第

13 : 30 開会挨拶 【 山本理事 (教育担当) ・ 副学長 】

13 : 35 出席者の紹介及び外部評価委員会委員長の選出

13 : 40 自己評価書説明 【 寺下 】

I 現況及び特徴

II 目的

III 基準 1 ~ 基準 3

(質疑応答)

14 : 00 自己評価書説明 【 村松 ・ 田中 】

III 基準 4

(質疑応答)

14 : 40 自己評価書説明 【 寺下 】

III 基準 5 ~ 基準 7

(質疑応答)

15 : 00 休 憩

15 : 10 外部評価委員による評価会議

15 : 50 外部評価委員からの講評

16 : 20 閉会挨拶 ・ 謝辞 【 山本理事 (教育担当) ・ 副学長 】

16 : 30 終了

## 静岡大学 全学入試センター 外部評価 調査票の記載について

1 「静岡大学全学入試センター外部評価調査票」は、外部評価委員の先生方に、外部評価委員会にご出席いただいた後、ご提出いただくものです。

2 評価にあたっては、「評価」の欄の「 優れている  良好である  改善すべき点がある  不十分である」の中から選択し、チェックしてください。

なお、評価に用いる評語は、次のようにお考えください。

- 優れている                      取組状況や活動状況が優れており、十分な活動がなされている。
- 良好である                      取組状況や活動状況が良好な活動がなされている。
- 改善すべき点がある              取組状況や活動状況に改善すべき点がある。
- 不十分である                      取組状況や活動状況に問題があり、活動が不十分である。

3 「コメント欄」には、当該項目に対する評価のポイントや判断の根拠となったことをすべての評価項目にご記入願います。特に、早急に改善することが望ましい点の指摘、また、改善のための助言なども併せてご教示くださるようお願いいたします。

例えば、〇〇に関しては〇〇が充実しているが、〇〇は不十分である。

今後は、〇〇に向けた取組（活動）が必要である。

そのためには、〇〇を検討してはどうか。

4 各外部評価委員からご提出いただいた外部評価調査票は、外部評価書に掲載させていただきます。また、この外部評価調査票及び外部評価実施当日（10/16）の講評を基に外部評価委員会委員長による取りまとめ及びご提言をいただくこととなっております。

5 以上により、誠に恐縮に存じますが、「外部評価調査票」にご記入のうえ、10月31日（金）までにご返送くださるようお願いいたします。

外部評価委員に「自己評価書」とともに事前に送付した「外部評価 調査票」

### 静岡大学 全学入試センター 外部評価 調査票

- \* 外部評価委員会を平成 20 年 10 月 16 日（木）に開催します。
- \* お送りした「自己評価書」の基準 1 から基準 7 までの各項目について、評価とコメントをご記入いただきます。
- \* 評価につきましては、該当する項目に☑を入れてください。
- \* この調査票は、外部評価委員会後、10 月 31 日までに提出していただくことになります。

#### 評価委員

基準 1 活動の目的 (pp. 3~5)  
【コメント】

##### 基準 1 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 2 活動の実施体制 (pp. 6~7)  
【コメント】

##### 基準 2 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準 3 教員の採用・昇格等 (pp. 8~9)  
【コメント】

##### 基準 3 の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

基準4につきましては3つの項目別をお願いします。

---

基準4-1-1-1 活動の状況と成果

(入試企画広報部門-学外向け活動) (p. 10)

【コメント】

基準4-1-1-1の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

---

基準4-1-1-2 活動の状況と成果

(入試企画広報部門-学内向け活動) (pp. 10~11)

【コメント】

基準4-1-1-2の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

---

基準4-1-1-3 活動の状況と成果

(入試情報処理部門) (p. 11)

【コメント】

基準4-1-1-3の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

---

基準5 施設・設備 (pp. 14~15)

【コメント】

基準5の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

---

基準6 財務 (pp. 16~17)

【コメント】

基準6の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

---

基準7 管理運営 (pp. 18~20)

【コメント】

基準7の評価

- 優れている
- 良好である
- 改善すべき点がある
- 不十分である

---

総合評価 (「自己評価書」全体を通してのコメントをお願いします)



◆ 外部評価委員会議事録

静岡大学全学入試センター外部評価委員会議事録

- 日 時 平成 20 年 10 月 16 日 (木) 13 : 20 ~ 16 : 30
- 場 所 本学共通教育 A 棟 303 教室
- 出席者 < 外部評価委員 >
- 高木 繁 (名古屋工業大学アドミッション・オフィス長)
  - 富永 倫彦 (山口大学アドミッションセンター長)
  - 稲垣 靖 (ゴートウースクール・ドット・コム株式会社取締役)
- < 静岡大学関係者 >
- 山本 義彦 (理事 (教育担当)・副学長)
  - 寺下 榮 (全学入試センター長)
  - 村松 毅 (全学入試センター)
  - 田中 勝 (全学入試センター)

会議次第

13 : 20 寺下全学入試センター長から本日の進行について、説明があった。

● 開会挨拶 (山本理事 (教育担当)・副学長)

山本理事より、全学入試センター外部評価委員会の開催にあたり、挨拶と出席いただいた 3 名の外部評価委員に対する謝辞があった。

引き続き、全学入試センターの位置付け等について、概要説明があった。

13 : 30 出席者の紹介及び外部評価委員会委員長の選出

出席者名簿により、自己紹介があった。

引き続き、本委員会委員長に名古屋工業大学アドミッション・オフィス長  
高木 繁氏を選出した。

13 : 30 自己評価書説明

- I 現況及び特徴
- II 目的
- III 基準 1 ~ 基準 3
- III 基準 4

14 : 40 自己評価書説明

- III 基準 5 ~ 基準 7

- 15 : 15 休憩
- 15 : 20 外部評価委員による評価会議
- 16 : 10 外部評価委員からの講評
- 16 : 20 閉会挨拶・御礼（山本教育担当副学長）
- 16 : 30 終了

● 自己評価書Ⅲの基準1～3に関する説明・質疑応答

寺下全学入試センター長から、自己評価書Ⅰ、Ⅱ及びⅢの基準1（活動の目的）、基準2（活動の実施体制）及び基準3（教員の採用・昇格）に基づき、優れた点及び改善を要する点について、中心に説明があった。

富永委員 全学入試センターの教員は、一般の教員と違い授業を担当しないのですか。

（回答） 入試企画広報部門の教員は任期付き教員であるが、学際科目「広報社会学（後期2単位）」の授業を担当している。

入試情報処理部門の教員は専任教員のため、情報処理業務に専念している。

富永委員 入試情報処理は実務処理ですか。

（回答） 実務処理である。実務処理担当の情報処理部門の教員が1名のため、体制に不安があることは否めない。

稲垣委員 全学入試センターと各学部との関係はどうなっていますか。

（回答） 全学入試センターと各学部の入試委員長を含む入試委員などと繋がりがあ

各学部において、入学者選抜の改善提案などを求められた場合は、出向いて説明している。

富永委員 山口大学では、入試の改善についてはアドミッションセンターのヒアリングを受けなければ変更などができないシステムとなっているが貴学はどうか。

（回答） 静岡大学では、各学部に改善提案等まで行うが、最終的には各学部（学科）で決定している。

高木委員 入試委員会との連携が重要であると思うが、入試の全学的な統一感を持つことが重要かと思うがいかがか。

（回答） 大学として外部から分かりやすい入試が必要と思うが、伝統というか、なかなか改善されないのが現状である。

● 自己評価書Ⅲの基準4に関する説明・質疑応答

村松全学入試センター教授から、自己評価書Ⅲの基準4（活動の状況と成果）に基づ

き、入試企画広報部門の活動内容の優れた点及び改善を要する点について、中心に説明があった。

引き続き、田中全学入試センター准教授から、自己評価書Ⅲの基準4（活動の状況と成果）に基づき、入試情報処理部門の活動内容について、説明があった。

稲垣委員 入試広報と全学広報との関わりはどのようになっていますか。

（回答） 大学広報は、事務局の広報担当が行っている。入試広報は、静岡大学のビジョンと使命の中でも、大学としての学外広報の中でも第一であるとの認識を執行部側も持っており、今後は一体となって進めなければならないと思う。

稲垣委員 「学部案内」と「大学案内」を作成する上での緊密な調整はしていますか。

（回答） 各学部で一定の広報のための予算を確保しており、その中でそれぞれが学部案内等を作成している。

山口委員 大学案内との内容の棲み分けはしていますか。また、全学の調整委員会などで内容の調整を実施していますか。

（回答） 特に、棲み分けを行うような調整はしていない。

稲垣委員 非常にもったいないと思うし、非効率的・非効果的になってしまうことがないですか。広報にしても、全学広報と入試広報が別々ではなく、ダイナミックな改革まで議論をしてはどうか。あえて、踏み込めないのか。

（回答） ダイナミックな改革は、学部長も構成員となっている教育研究組織等検討ワーキングなどで大学の規模や学部の改組などが検討されている。大学と学部との“仕組み”について検討されている。

高木委員 入試の基礎データの入力を外部委託していない大学は少ないのではないかと。

なぜ、入試データの加工までしなければならないか。むしろ、そのデータから何の情報を引き出すのかを全学入試センターで指示したら良いのではないのでしょうか。基準を統一化すれば、業務コストの軽減にもなるのではないかと思うのだが。

（回答） 入試の基礎データの入力作業の外部委託については、入試データは、志願者データの読み合わせやデータのエラーチェックなどを各学部の共有も含めて責任を持って行ってもらいたいこと及び前期日程に志願者が多く、データ処理が膨大となることなどから、各学部の付加作業を軽減させるために、これまで行っている。

富永委員 学部が独自に広報活動をしていると伺ったが、外部からのクレームはないのか。

(回答) 特になし。学部間の広報戦略についての横の連携はないが、危機感を感じている学部は独自に出前講義や説明会などを行っている。そのため、全学的では、高校等の顧客管理ができていないのが現状である。

高木委員 広報の一元管理は必要であると思う。

● 自己評価書Ⅲの基準5～7に関する説明・質疑応答

寺下全学入試センター長から、自己評価書Ⅲの基準5（施設・設備）、基準6（財務）及び基準7（管理運営）に基づき、活動内容の優れた点及び改善を要する点について、中心に説明があった。

富永委員 対外的には大学としての学部全体の入試情報を一元的に管理・発信するような基地として、全学入試センターが前面に出る方が良いのではないかと。

(回答) 入試情報は、現在入試チームのホームページから入試情報は提供しているが、ご指摘の部分は、今後検討していきたいと思う。

富永委員 ガイドブックは3年に1度の大幅リニューアルがあるというが、恒常的に予算が配分されるということか。

(回答) 本学では、この3月に策定した「静岡大学の未来を拓く～ビジョンと戦略」の中で広報は「学外広報は入試広報を優先する」とした戦略にそった施策であるため、これからも恒常的に配分されることとなる。

● 休憩を挟んで、外部評価委員会委員は別室にて評価会議を実施

● 外部評価委員会委員長からの講評（16:10～16:20）

高木委員長から、以下の講評があった。

基準1（活動の目的）

特段の意見なし。

基準2（活動の実施体制）

現在の入試情報処理部門1名体制では、リスクマネジメントの観点から不安要素ではないかと思われる。安全な実施体制を保持するためには、2名体制が必要と思われる。

基準3（教員の採用・昇格等）

任期付専任教員である入試企画広報部門については、この体制で良いのか。任期制

で、全学入試の中心的存在になれるのか。任期制のままであれば、現在の「静岡大学教員の任期に関する規程」による、現在の任期3年、再任2回よりも任期3年、再任3回以上の方が良いと思われる。このままでは、貴大学にとって優秀な教員が長らく在職できない仕組みであるため、再任の回数については、改善の余地があると思われる。

#### 基準4（活動の状況と成果）

入試制度については、大学としての統一した基準づくりを全学入試センターでその基準作りをした方がよいと思われる。入試広報についても全学入試センターで情報を一元管理した方がよいと思われる。

また、入試基礎データの入力作業の外部委託の検討も行った方がよいかもしれない。

#### 基準5（施設・設備）

全学入試センターのホームページがないのは不十分であると思われる。学内外に提供する入試情報（入試広報含む）は、全学入試センターのホームページから入り込めるような基本ツールとしたらどうか。

#### 基準6（財務）

ガイドブック作成費用を恒常的に含んだ金額で予算措置されているため、望ましい状況である。

#### 基準7（管理運営）

全学入試センターと入試課との連携がうまく運営できていて望ましい状況である。

#### （まとめ）

全学入試センターが設置されて5年が経ち、第一期中期計画・中期目標に掲げた役割は十分果たしたと思われる。

これからは、第二期中期計画・中期目標のための新たな全学入試センターとしての発展的な使命を考える時期に来たのではないかとと思われる。

#### ● 閉会挨拶（山本理事（教育担当）・副学長）

山本理事より、あらためて出席いただいた外部評価委員に対して、評価の講評に関するお礼の謝辞と閉会の挨拶があった。